



挨拶

同窓会長 村岡 兼幸



第42号

発行所
秋田県立本荘高等学校同窓会

印刷
(株)本間印刷所

本荘高校同窓会員の皆様におかれましては、日頃より同窓会ならびに母校に対し御支援・御協力を賜り、誠にありがとうございます。私は、昨年の同窓会総会において3期9年同窓会長を務められた猪股春夫同窓会長の後を引き継ぐことになります。私は71期の村岡兼幸であります。簡単な自己紹介をさせて頂きますと、私は今年満六十歳、すなわち還暦を迎えました。本年中学ならびに高校の仲間と「還暦を祝う会」などもあり、「還暦」とは誰にとっても自分自身のこれまでの人生、これから的人生を考える大きな節目の時に同窓会長に就任しました。第二の人生をスタートするにあたり、浅学非才の身ながら同窓会活動にかかわっていけることを幸せに思います。

さて、同窓会と云えば、「高校のコト!」と思うほど、何故かくも各高校の同窓会の絆は強いのでしょうか? (特に我が本荘高校に) ることは、それを強く感じます。) 昨秋、機内誌をめくつてみると、浅田次郎氏のエッセイ「加速する人生」というタイトルが目に飛び込んできました。直観的に私の今の心境を言いつけている言葉に違いないと思いまして。私は本荘高校を卒業してから既に42年、過ぎてしまえばあつとう間の出来事、まさに「光陰矢のごとし」の言葉通りであります。それは、42年間というまとまった時間の経過だけでなく、年をとるにつれて益々一年一年の長さが短く感じるようになつてきました。そのエッセイによると、フランスの心理学者ピエール・ジヤネの学説によれば、『人生の一時期における時間の心理的な長さは、年齢に反比例する。』と云うのです。例えば十歳の少年の一年は人生の十分の一だが、六十歳の一年は人生の六十分の一に過ぎぬから心理的には短く感じられる。確かに、自分自身の人生の折節に、この公式を当てはめると、なるほどと云う気がします。

その意味において、高校時代は人生80年、90年と云われる現代にあって、人生の16分の1、17分の1、18分の1の3年間は、青春時代であり且つ初めて人生の進路を選択するという貴重な3年間なのです。因つて、その3年間は、現役の高校生にとって大切なことは勿論のこと、我々卒業して何十年も経つた同窓生にどうても特別な3年間なのだと想います。だからこそ、その仲間達と語り合える同窓会は、「旧交と今を温める」とつても楽しい時間になるのです。今年は、明治の元号で云うと明治150年、旧制本荘中学第1期生41名(当時は全寮制度)が卒業とともに(明治40年)に、県内で初めて同窓会をつくつてから、ちょうど110年になります。本年9月30日にカダーレ大ホールにて、全校生徒ならびに同窓会員約一千名の参加のもと、同窓会創設110周年式典を行います。その式典・祝賀会は、長く脈々と続く本高の伝統精神を理解するとともに、同窓各位の連帯感とふるさと愛を強め、現在及び未来に向かつて母校の永遠の発展に資する「同窓会創設110周年」にするべく準備を進めております。全国各地から多数の同窓会員の参加を心からお待ち申し上げております。結びに、同窓会員の皆様の御健勝ならびに御活躍を心から御祈念申し上げ挨拶いたします。

その意味において、高校時代は人生80年、90年と云われる現代にあって、人生の16分の1、17分の1、18分の1の3年間は、青春時代であり且つ初めて人生の進路を選択するという貴重な3年間なのです。因つて、その3年間は、現役の高校生にとって大切なことは勿論のこと、我々卒業して何十年も経つた同窓生にどうても特別な3年間なのだと想います。だからこそ、その仲間達と語り合える同窓会は、「旧交と今を温める」とつても楽しい時間になるのです。今年は、明治の元号で云うと明治150年、旧制本荘中学第1期生41名(当時は全寮制度)が卒業とともに(明治40年)に、県内で初めて同窓会をつくつてから、ちょうど110年になります。本年9月30日にカダーレ大ホールにて、全校生徒ならびに同窓会員約一千名の参加のもと、同窓会創設110周年式典を行います。その式典・祝賀会は、長く脈々と続く本高の伝統精神を理解するとともに、同窓各位の連帯感とふるさと愛を強め、現在及び未来に向かつて母校の永遠の発展に資する「同窓会創設110周年」にするべく準備を進めております。全国各地から多数の同窓会員の参加を心からお待ち申し上げております。結びに、同窓会員の皆様の御健勝ならびに御活躍を心から御祈念申し上げ挨拶いたします。



伝統の団歌練習

(平成29年4月：本荘高校第一体育館)



未来を拓き、

社会を担う人材育成のために

校長72期 今井智幸

同窓会会員の

皆様には、日頃から本校の教育活動に特段の御協力、御支援を賜り心からお礼申し上げます。今年度、本校同窓会は発足百十周年を迎える記念行事が開催される運びとなりました。会員の皆様には、心からお祝いとお喜びを申し上げます。

グローバル化の進展に象徴される激動の時代を生きていくことになります。秋田県は既に人口百万人を割り、昨年の人口動態統計で出生率22年連続全国最下位でした。

今、自己の未来やふるさと秋田・二十一世という未来を切り拓き、社会に貢献できる人材の育成が求められています。生徒一人一人が、変化の激しいこれ

第一期生4名が母校を卒業して以来、既に卒業生は2万8千人を超える数となっています。第一回卒業式が挙行された年の八月、本荘中学校同窓会が早々に発足しました。県内最古の同窓会の誕生には、「玲瓏同氣」の源

流を見ることがあります。また、東京同窓会をはじめとする各支部の存在は、卒業生の様々な分野や県内外での御活躍の証であり、在校生にとつて大きな励みとなっています。

の学校関係者をはじめ、地域社会とも連携を深めながら本校の教育活動の一層の充実に努めていく所存です。これまでと変わらぬ母校への御理解と御支援を賜りますようお願いし申し上げます。

勝利することはできませんでしたが、学校全体で一丸となつて応援することができました。

今後これら、同様な「A等」から
の時代に主体的に向き合い、
自らの可能性を發揮し、よりよ
い社会と幸福な人生の創り手と
なることができるよう、日々、
職員一同心を一つにして教育活
動に励んでおります。

六月は全県総体が開催され、剣道は男女ともに個人戦で優勝しました。卓球女子個人戦でも三位となり、計三名が八月に開催される全国大会に出場します。また、軟式野球大会では、明徳館高校との対戦で、全校応援で、

八時三十五分まで生徒は一生懸命学習に取り組んでいます。五月には「なべっこ」が行われました。雨天での実施となりましたが、生徒は協力しておいしい豚汁を作ることができました。



定期制課程 教頭

定期より

進路指導部より

役員名簿
(平成28年)

(平成28年9月～平成31年8月)

部活動の活躍

端艇部(部員54名、顧問 月本 真・浅沼宏明・畠山圭亮)

・東北大会

男子シングルスカル	第2位 佐藤大也
女子舵手付きクオドルブル	第2位
女子ダブルスカル	第3位

・全県総体

男子舵手付きクオドルブル	第1位
男子シングルスカル	第1位 佐藤大也
女子舵手付きクオドルブル	第1位
女子ダブルスカル	第1位
女子シングルスカル	第3位 渡邊知佳

バスケットボール部(部員31名、顧問 北島義大 伊藤 心)

・全県総体

男子 1回戦 本荘57-85横手城南

卓球部(部員20名、顧問 菊地達八・佐藤美和子)

・全県総体

男子団体	2回戦 本荘1-3由利工
女子団体	ベスト8
女子個人	ベスト8 金澤陽菜

山岳部(部員6名、顧問 大山治彦・村上丈二)

・全県総体

男子団体Aパーティ 第2位

剣道部(部員13名、顧問 佐々木祐輔・武石知也)

・全県総体

男子団体	予選リーグ
女子団体	予選リーグ

バレーボール部(部員16名、顧問 佐々木篤・夏井雅子)

・全県総体

女子 1回戦 本荘0-2角館

硬式野球部(部員51名、顧問 富樫真雄・大宮正人・鎌田 勉)

・春季中央地区大会

準々決勝 本荘5-9秋田商(延11回)

サッカー部(部員39名、顧問 石垣裕介・続 文明)

・全県総体

1回戦 本荘1-1(PK4-5)西仙北

柔道部(部員15名、顧問 我妻沢美・江畑美保)

・東北大会

男子個人81kg級 第3位 高橋大翔

・全県総体

男子団体 ベスト8

男子個人66kg級 第3位 高橋 昂

男子個人81kg級 第1位 高橋大翔

男子個人90kg級 第2位 中川優斗

男子個人100kg級 第2位 佐藤永希

女子団体 ベスト8

女子個人52kg級 第3位 村田紗希

女子個人57kg級 第3位 蓬田みゆか

女子個人78kg級 第1位 打矢明日香

ソフトテニス部(部員33名、顧問 斎藤雄一郎・大泉由紀子)

・全県総体

男子団体 1回戦 本荘0-3大曲工

女子団体 1回戦 本荘0-3大曲

陸上競技部(部員49名、顧問 櫻田文人・佐藤春香)

・全県総体

女子400H 第5位 土田絵里奈

女子やり投 第2位 本間奈々子

女子円盤投 第2位 本間奈々子

軟式野球部(部員32名、顧問 進藤 紀・和田史穂)

・春季全県大会

準決勝 本荘0-4秋田工

水泳部(部員10名、顧問 鈴木愛梨・木村 司)

・全県総体

女子50m自由形 第2位 小畠茉凜

女子100m自由形 第3位 小畠茉凜

弓道部(部員37名、顧問 須田直子・佐藤幹夫)

・全県総体

男子団体 3回戦

女子団体 2回戦

ヨット部(部員4名、顧問 渡辺 光・江幡隆弘)

・東北大会

男子420級 第5位

女子420級 第6位

科学部(部員17名、顧問 松永正典)

H28年度齋藤憲三・山崎貞一顕彰会研究助成校において「コレステリック液晶の色相についての研究」で銀賞受賞。H29年度も研究助成に指定された。

子ども向けの科学教室である「科学の祭典」「科学のひろば」に参加する。

WRO(レゴロボット)大会に参加する。

文芸部(部員6名、顧問 木村 司)

県高校文芸コンクールに向けて創作に励んでいる。

美術部(部員16名、顧問 森 久樹)

第50回秋田県高校総合美術展美術工芸部門に向け制作に励んでいる。

第40回由利本荘・にかほ地区高校美術展が平成30年1月に行われる。

演劇部(部員18名、顧問 太田和佳子)

中央地区高校演劇コンクールを突破し、全県大会出場、東北大会を目指して稽古に励んでいる。

放送部(部員28名、顧問 斎藤潤子・山本長幸)

・秋田県高校 放送コンテスト

総合 銅賞

アナウンス部門 優秀賞 高野 詩

朗読部門 優秀賞 村上優理

テレビドキュメント部門 優秀賞

「おめのロッカー汚ねぐね?」

吹奏楽部(部員50名、顧問 石川陽子・金内 哲)

5月28日に定期演奏会を開催した。

全日本吹奏楽コンクール県大会・中央地区大会に向けて練習に励んでいる。

華道部(部員5名、顧問 奥山みどり)

玲瓏祭に作品を展示した。

茶道部(部員63名、顧問 五十嵐 史)

玲瓏祭で「玲瓏茶会」を開催した。

写真部(部員16名、顧問 木村 郁)

・秋田県高等学校写真連盟展

入選 佐藤あい

入選 猪股衣奈

書道部(部員23名、顧問 佐々木志津代)

玲瓏祭に作品を展示し、書道パフォーマンスに挑戦した。

創設 110 周年記念特集

本荘高校同窓会 この 10 年



同窓会顧問

猪股 春夫

本高同窓会創設百十周年、誠におめでとうございます。

今から十年前、旧文化会館で行なわれた創設百周年記念式典から、本高同窓会の 2 世紀目がスタートしました。私にとって、百周年実行委員長、直後からの同窓会長と、会員の皆様には大変お世話になり続けの十年でした。改めて深く感謝を申し上げます。

この十年、まず思い出すのは母校の甲子園出場です。全国から集まつた同窓生と共に味わった真夏の感激は、今でも興奮し心が踊ります。そしてボートや柔道をはじめとする「武」の活躍、東大や医学科をはじめとする「文」の成果など、まさに「右文尚武」の母校が傍にありました。

また、母校の創立百周年も快い事業でした。全国の同窓生

がこれだけ参加する学校行事は、他校には無いものです。まさに

本高同窓会の秋田県で最も長い歴史と伝統と、同時に遠路はるばる参加された各支部の皆様の母校への思い、そして何より会員相互の強い絆を感じた一日でした。

その後、事務局・各相当期の皆様の御尽力により、会報の全員送付・講演会実施など同窓会活動の活性化を進めることができました。お陰様で近年、各行事への参加会員が増加してまいりました。

今回の創設百十周年を、在校生と共に祝うことが出来、誠にうれしい限りです。カダーレで新たな十年を踏み出した本高同窓会に大きな期待を持つと共に、これからも盛り上げて行きたいと思います。

また、乾杯に先立ち近藤明氏（61期）によるギターの名曲「禁じられた遊び」「アルハンブラの思い出」「ルンバフラメンコ」の生演奏で参加者全員が癒しのひと



秋田支部

庄内支部



庄内支部同総会この10年
省みるに庄内同窓会は今年度（H29年）で支部創設44年目を向かえる事となります。がこの10年間も、会員皆の故郷・母校への想いの繋がりの元毎年総会で集まり、

時を過ごすことができた。
母校での思い出に花を咲かせるとともに、世代を超えた交流がはかられ、最高の盛り上がりを見せた支部総会であつた。

「次の10年に繋がるさらなる支部の飛躍・結束」を誓い合い、齋藤顧問の閉会の辞で幕を閉じた。
秋田支部理事 梅津順（76期）

庄内が元気をださなければとの会員の声、思いもあり被災地にエルを送り開催又、H25年には庄内支部設立40周年に当たり設立以来長年この会の運営に尽力された先輩の方々に記念品を贈り記念総会が開催できた事。色々な思いもありますが一番は、この10年間も庄内に在住する本高同窓生が一同に集い、その時ばかりは皆若返り学生時代に戻つて故郷を語り校歌・応援歌を高らかに歌いあげ親睦を深め合えた10年間でありました。昨今庄内支部は会員の減少に加え高齢化が急速に進んでおり会員の勧誘に苦慮いたしております。今後もこの庄内支部が会員皆で知恵を出し合い末永く存続し発展し続けることを祈念し努力するものであります。



庄内支部長 齊藤武久(58期)

仙台支部



關西支部

願いしたいところです。

お互い情報交換し、元気を確認し合い母校や故郷の話題で毎回賑やかな総会後の懇親会を開催いたしております。この10年間で思い出深い懇親会の幾つかは、H23年の第38回支部総会、あの3・11東日本大震災の年、開催すべきか否か迷ったのですが自粛ばかりでなく三月が元気などと云はずこのま

同窓会十年の歩み

平成十九年十一月に開催された同窓会創設百周年式典から早くも百十周年になろうとは流れの速い歳月を実感しています。当時の多くの良き日を思い出し整理するな

輩の方々に記念品を贈り記念総会が開催できた事。色々な思いもありますが一番は、この10年間も庄内に在住する本高同窓生が一同に

集い、その時はかりは皆若返り学生時代に戻って故郷を語り校歌・応援歌を高らかに歌いあげ親睦を深め合えた10年間がありました。昨今庄内支部は会員の減少に加え

高齢化が急速に進んでおり会員の勧誘に苦慮いたしております。今後もこの庄内支部が会員皆で知恵を出し合い末永く存続し発展し続けることを祈念し努力するものである。

された本荘高等学材の伝統が健在であつたと承知しています。講演が終了してまもなく先生と歓談した時に「最後まで話が出来るかとすごく不安だった」との言葉でした。私は思いもしない一言にドキッとして、また前日より高熱があり体調不調との事でした。しかし「内容は大変すばらしいお話をでした」と労いの言葉を掛けたら「そうか」と一呼吸おいていました。あの時間帯が今でも心の中にしまつています。

記念文集にも述べておりますが、昭和五十年頃に初めて東京同窓会に顔を出してから、今日まで母校同窓生とともに歩んで来たことを誇りに思いつつ、時には各支部の同窓会にもお招きいただき、幾多の同窓生の皆さんと長きにわたり交流し、その都度身に付けた大切な財産は大変有難く感謝しているところです。

仙台支部長 三浦陽一(53期)

仙台支部

同窓会十年の歩み

平成十九年十一月に開催された同窓会創設百周年式典から早くも百十周年になろうとは流れの速い歳月を実感しています。当時のあの良き日を思い出し整理するならば、母校を卒業してから四十九年振りにお逢いする恩師で担任の、江幡勝一郎先生のご講演で「花と茨の一期生達」のお話で有りました。明治三十五年四月十日創立時の生徒であり、校標にある通り「右文尚文いそしみて」を基本とした精神を長きにわたり同窓生に継承されました。本庄高等学校の云流が建庄

もう一つの月日の流れの速い話としては、本荘高校の百周年記念の事業の中に「先輩諸氏による特別授業」が有りまして、この授業に第五十三期卒業生が五名程学年別に授業をしていました。この出会いがきっかけで私共の仙台支部同窓会に関西、東京、群馬県等より参加して頂いて、正に二期二会でした。平成二十一年九月に仙台支部同窓会二十周年記念式典の時もここのメンバーに出席して頂き、各支部からは支部長さん、学校同窓会の役員の皆さんと恩師で有ります、平間先生、齊藤智善先生のご出席にて会に花を添えて頂いた事が想いで深く残っています。

振り返れば限りが有りませんが、直近では東京同窓会五十周年記念式典にもお招き頂き大変お世話になつてます。東京五周年

先ずは同窓会創設110周年おめでとうございます。今回はこの10年間の状況報告ということですが、この間の大きな変化としては平成24年の26回支部総会において、支部長が50期の織田忠雄氏から65期の須田和朝に交代し、役員が若返つたことが挙げられます。しかしその後の趨勢としては、会として若手が増えないことや、参加者の固定化、高齢化が進みます。

関西支部長 須田和



同窓会創設百十周年を迎えるに
よりお祝い申し上げます。

先ずは同窓会創設110周年おめでとうございます。今回はこの10年間の状況報告ということですが、この間の大きな変化としては平成24年の26回支部総会において、支部長が50期の織田忠雄氏から65期の須田和朝に交代し、役員が若返つたことが挙げられます。しかしその後、趣勢としては、会として若手が増えないことや、参加者の固定化、高齢化が進みます。現在の行事参加者は、会員の約一割である20数人というところです。

支部行事としては秋の総会、冬の新年会、春の硬式野球部激励会、夏の納涼会といったところでありますが、特に野球部激励会は過去4回（S42年、S63年、H18年、H20年）に及ぶ夏の甲子園出場にながつた？関西支部としての特徴ある行事です。今年は平成20年以降9年目ということで、久方ぶりの快挙を待ち望んでいます。

昨年は10月に近畿秋田県人会12周年記念行事があり、11月には30周年の関西支部総会でした。先輩諸氏からのご寄付もあり、特に若手の入会に向けて力を入れようとしており、関西地区への同窓生の情報提供等を本会にもご協力をね

私ども東京支部（東京同窓会）は昨年再建五十周年を迎えることができました。昨年十月三十日に開催された第五十回総会・懇親会には、百二十名以上の近年にない多くの参加者があり大いに盛り上がりました。同窓会本部・各支部よりたくさんのお祝いのお言葉を頂戴しました。改めて御礼申し上げます。

本部事務局の編集方針に従いこの十年間の当支部の活動状況を以下にご報告いたします。

五十周年を記念して記念文集を発行しましたが、この十年間で、「四十周年記念文集」、「ぶんしゅう2009」、「四十五周年記念文集」、「ぶんしゅう2013」と精力的に発行されました。

同窓会活動は会則にもある通り「母校の発展を期し、会員相互の親睦を図る事」を基本としてなされていますが、年一回開催される総会・懇親会のほかに、親睦を深める活動として、今年度は木下サーカス見学(4月)、大相撲観戦(5月)、落語鑑賞会(6月)、ブリ野球観戦(7月)などが計画実施されています。この十年間では他に歌舞伎観劇会、劇団四季観劇、ハイキング、東京湾クルージング、など多彩な行事を実施してまいりました。この活動は十年以上前より続けられている伝統行事となっています。

当会では、近年インターネットの活用に注力しており、ホームページの一層の充実化を図るとともに、「メール連絡網」の確立に努めています。情報伝達や連絡業務の省力化、迅速化、コスト低減などが狙いです。

総会・懇親会の開催においては、

特定した卒業年期のメンバーによる実行委員会を立上げ、そこが中心になつて準備していただく方

法を参考にしたものですが、これを数年前から採用し実施しています。この方式は本部同窓会の実施

により役員以外の多くの会員に参加していたことができ、また

総会・懇親会への出席人数も増加し、今のところ順調に推移しています。

他の同窓会からもお聞きする話ですが、当会においても活動への参加者はやはり年輩の方が中心で、若い会員の参加増が常に課題となっています。

東京同窓会長 佐藤源一(60期)
北海道支部、この十年
全国各地の本荘高
校同窓会員の皆様、
こんにちは。
札幌は丁度ライラ
ック祭りが終わつた
ところです。これから
精神に支えられた
北海道の地から、
本荘高校・同窓会
の益々の発展に尽
くして行きたいと
思います。どうぞ
宜しくお願ひ致し
ます。

北海道支部



創立28年になります。また、この十年間は私が前畠山(50期)支部長から引き継いだ期間でもあります。

北海道支部の総会は毎年七月の第一週金曜日で、支部会員が100から90名に僅かずつ減っています。このところ順調に推移しています。

高校時代の経験

中学校時代の野球部は、身体をこわし二年で退部し、三年は合唱部に所属した。

三浦先生からの忘れられない言葉があります。「いくら心の中で思つても、言葉を選び熱意を込めて語らなければ伝わらないよ。」

高校時代の経験

52期 宮田 征文

中学校時代の野球部は、身体をこわし二年で退部し、三年は合唱部に所属した。

高校入学後は、部活動をするでの集まりです。先日、第206回を行いました。この月例会は支部が発足して五年後に、初代支部長の小幡さん(44期)が中心になつて始められたもので、会員の親睦を深める大きな役割を果たして來ました。

本人の拒否権発動は無視され本当に出場することになった。汗まみれになつて何を述べたか定かではないが、まぐれで優勝してしまつた。

その後、教員として、「思いを伝える」実践の場に立つことになつたが、生徒の心に伝える難しさを感じながらの四十年間だったようだ。

それが、ある日の学級会で、多数決によってクラス代表の弁士として校内弁論大会に出場することになつた。

高校入学後は、部活動をするでの集まりです。先日、第206回を行いました。この月例会は支部が発足して五年後に、初代支部長の小幡さん(44期)が中心になつて始められたもので、会員の親睦を深める大きな役割を果たして來ました。

本人の拒否権発動は無視され本当に出場することになった。汗まみれになつて何を述べたか定かではないが、まぐれで優勝してしまつた。

頂く 心の大切さ



62期 小松 幸円

大学教員を40年務め、定年まで7年残しての早期退職、ここ東由利の実家に帰つて早くも6年経ちました。

田舎でノンビリと町の人々と触れ合いながら山・川に漫り、これから的人生を・・・と頭に描いていたのですが。現在は教員時代よ

北海道支部は今年
加藤幾芳(61期)
(六月三日記)
書き直しの状態でした。

りも多忙な日が続く時もあり、古稀を迎える歳、体力の弱化が日々身に染みている昨今です。が、父母、姉が様々な形でお世話になった町、何かしらのお役に立たなければご先祖様、父母に申し訳ない唯々この思い一つであります。

教員の頃は、学生の健康・体力についての座学と実技、それに剣道指導、諸会議、諸学会、こちらもいろいろ多忙でありました。何とか40年過ごしてまいりました。今、町・市からの地域まちづくり、学校、更生保護、お寺、そして剣道に関係しておりますが、学生教育とはまた異なる試練を今体験しております。しかし、多くの人々に会い、そして語らい、この6年で貴重な多くの事を学び得ることができました。それは剣道の心の訓えである「相手の気持ちになつて考え、相手を敬い、させて(打たせて)頂く、やつて(打つて)頂く」。この気持ちを忘れずに、もう70ではなくまだ70。これからも一生ではなく一所懸命に出会う方々を大切に歩んで行こうと考えております。

元 大学教員
略歴

私は昭和49年入学で、鳥海村の川内中学校出身です。大の道踏切近くの花畠町に下宿してました。学校へは、本田仲町の由利高校正門前を通つて行くのが最短コースですが、女子の多さに気後れして、駅前郵便局の方へと迂回して通つていました。

校内でも気後れすることばかりでした。大きく広い校舎。全く解けなかつた実力テスト。小説を書いている者、爪で鉛筆を削る者、すごく勉強のできる同級生たち、大人びた上級生、恐怖の応援歌練習。トラウマになるほど刺激の強い十五の春でした。

夏を迎えるころには、時間をずらして学食に行くことを覚え、十円パンと揚げあんパンだけという食生活もだいぶ改善されました。秋には、文化祭で3年生の八ミニ映画やバンド演奏に感動し、友人と隣の由利高校の文化祭に出かけたが、経過した事に改めて時の流れの速さを感じています。

スーパーマーケットで一皿四十円で売られていた大安売りの鯛を見たか。問い合わせで始まるその詩

は、教え子たちに贈る言葉だった。
(抜粋)

好きこそものの上手なれ(続)

1987年卒業 秋田魁新報社総務局人
事部長

が、今も折に触れてコピーを手に取る。鬼籍に入つて久しい恩師を思い起こしながら、「自分でないものになる」と反すうしている。

昨秋の異動で記者職を離れたが、今も折に触れてコピーを手に取る。鬼籍に入つて久しい恩師を思い起しおながら、「自分でないものになる」と反すうしている。

本道をこれまで自身が歩んできた競技人生と共に、高校時代の恩師、大友貴弘先生から学んだ原点である厳しさと優しさを忘れず、先生の背中を追い、精進して参りたいと思います。故郷、母校への感謝と誇りを胸に・・・

本当に有難うございました。



92期
藤川 亜希



略歴
実業団チーム寿屋ラララ(陸上部)
→旭化成(陸上競技部)
→資生堂ランニングクラブ
→ルートインホテルズ(女子陸上部監督)

玲瓈なる同氣

72期
佐藤 利正



見たときは、本高生としてのアイデンティティが芽生えました。

高校を卒業してから40年。母校とは、時が経つほどにありがたく、また切なくなつていくものだと感じています。ただの小石を受け入れてくれたすべての玲瓈なる同氣たちに、心から感謝・感謝です。

秋田大学教育学部卒
秋田南高校校長

見たときは、原形をとどめない身のくずれた魚は、得体の知れない酒のつまみか、わずかな出汁程度にしかなりません。作者は、たたき売られる鯛ない。作者は、たたき売られる鯛と無垢で未成熟な若者を重ね、「簡単に諦めるな」「自分を貫け」と教え導く。

魚は、得体の知れない酒のつまみか、わずかな出汁程度にしかなりません。作者は、たたき売られる鯛と無垢で未成熟な若者を重ね、「簡単に諦めるな」「自分を貫け」と教え導く。

恩師の言葉支えに

82期 叶谷 勇人

一編の詩のコピーを手帳に挟んで持ち歩いている。高校3年の時の担任だった国語教師の作で、卒業時に配られた文集「白玲瓈」に掲載されたものである。

スーパーM-ケットで一皿四十円で売られていた大安売りの鯛を見たか。問い合わせで始まるその詩

は、教え子たちに贈る言葉だった。

が、今も折に触れてコピーを手に取る。鬼籍に入つて久しい恩師を思い起しおながら、「自分でないものになる」と反すうしている。

本当に有難うございました。



92期
藤川 亜希

今年で卒業してから20年の月日が経過した事に改めて時の流れの速さを感じています。

今現在私は、高校時代に没頭していた陸上競技の道を選手から指導者に形が変わり、実業団チーム

の監督として高校・大学を卒業した選手達の育成に奮闘しております。卒業後、この「玲瓈同氣」にも何度か掲載していただきました。

その中でも一番最初に載せていました。今現在も、この時の「好きなこと」に全力を尽くして長く続けてこれた事を心から幸せに感じています。そして、まだ続くこの一年(ゆめ)をのせて書かせていました。だいた日の事が一番鮮明に覚えていました。今現在も、この時の「好きなこと」に全力を尽くして長く続けてこれた事を心から幸せに感じています。

その中でも一番最初に載せていました。今現在も、この時の「好きなこと」に全力を尽くして長く続けてこれた事を心から幸せに感じています。そして、まだ続くこの一年(ゆめ)をのせて書かせていました。だいた日の事が一番鮮明に覚えていました。今現在も、この時の「好きなこと」に全力を尽くして長く続けてこれた事を心から幸せに感じています。



挑戦

102期
久松 香菜

短大を卒業後、航空自衛隊へ入隊。その後2013ミス・ユニバース秋田大会に出場し秋田代表として、日本大会では特別賞を受賞させていただきました。様々な経験は、挑戦することの楽しさを教えてくれました。とはいっても始まりはいつも不安です。努力は報われる、なんてことも言いつれません。ただ、進み続けていれば見える世界は変わるし、目標さえ成長していきます。たとえそれが思い描いた道と違っていても、歩いている限り人は成長できるということを気づかせてくれました。向き不向き、得意や苦手、好き嫌い、そんな判断はやってみないとわからないし、できないからこそ続ける意味が生まれます。失敗でさえ、経験は自分の可能性を広げてくれました。思い返すと、高校時代に描いたたくさんの夢は、そのひとつも成し遂げられていましたが(笑)これからも挑戦を続けて、いつまでも学ぶことの楽しさ

を感じていただきたいです。

略歴
聖霊女子短期大学文化コミュニケーション科卒。現在(有)ガーラ・アマノ所属モデル。

やる気次第

108期 定時制
土方 翼

高校時代の担任の先生に言われた言葉です。「人はやる気次第で何だつてできる。だから諦めるなよ」。

当時は何を言っているのかよくわからりませんでした。それが、今は社会に入った私の支えになっています。

高校に入学した頃は、やりたいことや目標もなく「ただ来ていいばいいや」と思っていました。でも、

はじめの一歩

112期 田近 堯聖

その日は春の陽が差していたのに、北風の冷たさが異様に身に染みたことを覚えている。本来なら来るべき高校生活に胸躍らせていましたが、同じ出身校の仲間がおらず知らない土地に引っ越し始めたことで憂鬱だった。初めてのホームルームは緊張しきりで自己紹介も「僕はこの学校に友人がいないので、仲良くしてください」と言うのが精一杯だった。

あれから三年。京都では桜が咲き誇る穏やかな天候のもとで入学式が行われた。同郷の仲間もいたと言つても過言ではありません。今私は自動車整備士として由利本荘市内で働いていますが、社会になつても勉強は続きます。高校時代の苦労が今の自分の糧となっています。何事もやる前からできないと思わない。挑戦することを恐れない。そのことを教えてくれた先生と定時制に感謝しています。これからも努力を惜しまず頑張りたいです。

きたのも、あの言葉に後押しされたと言つても過言ではありません。

い見ず知らずの土地だったが、今度は期待しか感じられなかつた。

私は自動車整備士として由利本荘市内で働いていますが、社会になつても勉強は続きます。高校時代の苦労が今の自分の糧となっています。何事もやる前からできないと思わない。挑戦することを恐れない。そのことを教えてくれた先生と定時制に感謝しています。これからも努力を惜しまず頑張りたいです。

昨年9月の総会で、役員が一新。村岡兼幸会長(71期)を先頭に、菊地長司氏(78期)、齊藤浩太郎氏(81期)そして私の3人を副会長とする新体制がスタートしました。村岡会長は経験十分ですが、副会長3人はズブの新人。サポート役というより引っ張られ役になりそうですが、伝統を汚さぬよう努めますので、よろしくお願ひいたします。

さて、9月30日には同窓会創立百十周年記念式典が、由利本荘市文化交流館「カダーレ」を会場に挙行されます。先日、秋田支部と庄内支部の総会に初めて参加させていただきましたが、皆さんの母校やふる里に対する熱き思いをヒシヒシと感じるとともに、熱烈な歓もいただきました。東京、関西、仙台、北海道各支部の皆さん思いも同じと受け止めています。記念式典には、「右分尚武」「質実剛健」「玲瓏同氣」の校標の下に学んだ多くの同士が結集できるよう、しっかりと準備して参りますので、皆さんのご参加をよろしくお願いいたします。

陳場岱

略歴
平成29年3月卒業・京都大学法学部在学



同窓会副会長
渡部 聖一

(66期)